

授業概要

この授業では言語学の下位分野である「意味論」「語用論」について概観していく。「意味論」の講義では、語彙の意味論に焦点をあて、日本語との比較を交えながら英語の名詞や動詞の意味が文法現象にどのように影響しているかについて講義する。「語用論」の講義では、ポライトネスと会話の協調原理について講義する。語用論では理解をより深めるために、主に日本語の分析を行いながら講義を進める。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	あいまいな表現の分析 1
第 3 回	あいまいな表現の分析 2
第 4 回	語の意味と意味関係 1
第 5 回	語の意味と意味関係 2
第 6 回	名詞の意味と文法 1：デキゴト名詞とモノ名詞 1
第 7 回	名詞の意味と文法 2：デキゴト名詞とモノ名詞 2
第 8 回	名詞の意味と文法 3：意味役割 1
第 9 回	名詞の意味と文法 4：意味役割 2
第 10 回	名詞の意味と文法 5：意味役割と構文交替
第 11 回	動詞の意味と文法 1：動詞の分類（Vendler の 4 分類） 1
第 12 回	動詞の意味と文法 2：動詞の分類（Vendler の 4 分類） 2
第 13 回	語用論 1：ポライトネス
第 14 回	語用論 2：会話の協調原理
第 15 回	まとめ
第 16 回	定期試験

※ 授業の内容、進度は状況に応じて変更されることがある。

到達目標

- ・英語と日本語の分析を通して、人間言語についての理解を深めることができる。
- ・「意味論」、「語用論」の基本的な知識を身につけ、基本的な文や表現の分析ができる。

履修上の注意

英語学は、暗記が重要な英語の語学学習とは本質的に異なり、論理的・科学的な思考方法が必要である。授業中は、言語分析の問題を解く時間も多くあるので、ただ講義を聞いてノートをとるだけではなく、自分の頭でよく考えて、わからないことは積極的に質問するようにすること。

予習・復習

- ・予習：次回の授業範囲の資料やハンドアウトに目を通し、指示された問題を解いておく。
- ・復習：授業でわからなかったところは次回の授業までにクリアにしておくか、疑問点をよく整理しておく。また、授業で扱った問題は家でもう一度解いて復習しておく。

評価方法

授業内での発表、提出物、授業で随時行う小テストの結果を平常点として点数化し、筆記による定期試験の結果と合わせて評価する。

平常点 40% 定期試験 60%

テキスト

教科書は使わない。作成したハンドアウトや資料を配布して授業を行う。